

「今までになかった体験」 有松大祐

僕がなぜこの日中友好団体に参加したという決して 1 万円で安く中国に行けると思ったわけではありません。今までに何度か中国大陸、台湾には行ったことがあります。全て個人の観光で行ったものがほとんどで中国人との交流、大学の訪問、ガイドを通しての観光、集団行動など今までに経験したことがありませんでした。僕は中国語を約二年間勉強していてももともとの文化、歴史、日本との関係に興味があり中国人たちに日本人や日本というものを知って欲しいという理由でこの団員になることを決意しました。

中国滞在時の生活では食事の時は日本は違い大きな皿でみんなで箸で取り皿に分けて食べるというものでした。相手に気を遣ってわたしは取りすぎた。あの人がまだ食べたそうなど最初は少しストレスでした。しかしだんだん気が付いてきました。このような方式で食べていると自然と会話が生まれ私たちのような初対面な人との食事でも楽しく食事ができるということがわかりました。です。中国語は家族の絆が強いということがわかりました。私はいつか家族と一緒にこのようなレストランで食べてみたいなど思いました。

私たち団体は人民大会堂で千人交流会というものに参加しました。中国の方 500 人日本人 500 人参加するというものでした。その開会式の前に僕たちは記念ということで他の中国人と写真を撮ってもらうことにしました。彼らは日本に留学しているわけでもないのに日本語が話せておすごいなと思えました。やはり隣国ということもあり互いに影響し合っているということがわかりました。これからも互いに文化に興味を持ってさらに発展できたらいいなと思えました。中国と日本で互いに何かを披露するときに相手側のくんで生まれたものを披露しているときがありました。中国側では吹奏楽で天空の城ラピュタの歌を披露していました。日本の音楽なのに中国の方があんなにもうまく曲を演奏を行うので私の心は動かされました。日本側では少林寺拳法を披露していました。初めて少林寺拳法を見て中国文化のものを日本人がとてもかっこよく披露していました。帰国後に先生に人民大会堂に行ける人限られているということと私たちが人民大会堂を出た後すぐに安倍総理が来ていたということに驚きを受けました。

私たち団体では日本全国からの大学生から結成されていました。です。普段生活していると絶対に会うことが出来ない仲間が出来ることが出来ました。やはりこのような団体に参加するということは自分と少し似ているような人とお話をすることが出来ました。慶応大学、明治大学、早稲田大学の学生とお話をし互いの経験や中国語についての考えかたなどを話しました。同じ日本でも考え方や環境がとても違ったので帰国後に日々関係もとても大事だなと思えました。

日本と中国はずっと昔から戦争など色々なことがあったと思います。歴史は歴史なのですが日本人が中国人に対して悪いことした歴史などもあると思います。それらを決してなかったことにはせず、もう一度勉強をし反省を行ってまた平和に向けて協力をして行けることを願っています。日中友好協会のようにまず互いに若者に対して互いの国について知ってもらうということは大切だとも思いました。私は今回の団体の参加、中国語を勉強していること、中国の文化に興味を持っていることすべてに対して良かったと思っています。これからももっといろいろなことを学習して世間知らずの僕ですが日本と中国の架け橋になれるような存在になれるように努力したいと思います。

日中友好団体の皆様と中国の方々このような機会を私たちに与えてくれて心から感謝いたします。

「自分の目で見た中国」 神林恵里

私は今回の日中友好協会のプログラムで、3度目の中国、2度目の北京訪問だった。元々中国語を勉強していたこともあり、今回の訪中に興味を持ち、応募した。今回の訪中が、一番地元の方々と触れ合うことができ、すぐのためになる経験だったと感じている。訪中前は正直、中国や中国人に対してよいイメージよりも少し怖いイメージが強かった。日本人のおとなしい感じと違い、すぐ自分の意見をしっかり持っていてよいことも悪いこともストレートに伝えてくる、プライドが高い雰囲気の方が多いと思っていたからである。しかし、地元の学生やお店、ホテルの方、そしてガイドさんと触れ合ううちに、中国人は自分のなかの芯をしっかりと持っているが、他人にはすぐ親切で親しみやすい方々なのだとなり、自分の中の中国人への怖いイメージが少しずつなくなっていた。そのイメージの変化には今回経験したいくつかの経験が関わっている。

イメージの変化につながった一番大きな経験は、お店の店員さんやホテルのスタッフさんに話しかけられた際に、まだまだ不十分ではあるが、頑張って中国語で会話をしてみようと思ひ話してみると、ほとんどの方が、私が話す中国語を理解しようと耳を傾けてくれたことである。まだまだ勉強不足でゆっくりで簡単な中国語しか話せない私を中国人は受け入れてくれるのかとすぐ不安で、今まではあまり積極的に話すことができなかったが、何回も助けてもらえた経験をしたことで自分が思っていたよりも中国そのものも、そして中国人も、外国人のことを受け入れてくれる親切で温かい国、人なのだを知ることができた。

加えて、北京城市学院訪問後の、今回の訪中プログラムのために中国側が準備してくださった歓迎会で、自分と趣味の合う一人の学生と知り合うことができたのも自分の中で中国に対するイメージが変わった大きなきっかけの一つであると考えている。歓迎会後、微信 (WeChat) で連絡先を交換し、日本に帰ってきてからも共通の趣味についての話題だけでなく、お互いの国の言語を勉強している者同士、学習の仕方やどんなテレビ番組を見ているのかなど、様々なことについて話している。その友人とお互いの国について話していくうちに、中国 (中国人) は、普段日本で放送されているニュースで報道されているほど「日本が好

きではない」という意識は強くないのではないかと感じた。今回文化交流をする中でも、お互いの学生はそれぞれの文化をすごく尊敬して楽しんでいる感じがすごく伝わってきた。日本で報道や自分のイメージだけを鵜呑みにするのではなく、実際に中国を訪問したことで、日中の関係は今よりもっと良くなっていくことを私は確信することができた。

このような経験から、現在では自分の中で訪中前の怖くて近づきたいという考えから隣国に住んでいる仲間としてもっと密にかかわってみたいという考えに変わった。中国へのイメージが変わっていく過程で、自分の人生を、これからどう有意義に過ごしていきたいかも以前よりも頻繁に考えるようになった。これから私は、今よりもっと中国語の学習に力を入れ、相手にスムーズに意思を伝えられるような完璧な中国語を目指すことを決意した。そして、これからは何度も日本の隣国である中国を訪れて、中国の良さを知っていきたいと思った。また、今回の訪中でつちかった経験を糧に、これから就職を考える時期に入っていく中で、中国を含む様々な国と関わられるような仕事を見つけ、自分が好きな言語を生かした仕事、生活がしたいという目標に向かって努力していきたいと考えている。今回の訪中プログラムは、自分で中国を旅行で訪れるよりも何倍もためになる、二度と経験することができないような本当に素晴らしいものだった。今回出会えた仲間や、日中両国の関係者の皆様に感謝して、日本と中国、そしてその他の国との懸け橋になれるような、一人前の社会人になれるよう、頑張っていきたい。

「想像とは違った中国」 後藤花心

私は、この訪中が初めての中国でした。長野県立大学の中から多くの生徒がこの訪中に参加しましたが、私は特別仲の良い人がいるわけでもなく5日間どうなるのかとても不安でした。しかし、長野県立大学含め、4号車のメンバーは、私にとっても優しくしてくれ、たくさん助けてもらいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。他班のメンバーと関わる機会はそれほど多くはありませんでしたが、自由行動の時間に同じ名札を付けていることの安心感からか、困っていそうな団員に声をかけたり、逆に困っているときに声をかけてもらったり、話したことはないけれど団員同士助け合おうという優しさを感じる事が出来ました。団役員の方々も、細かいところまで私たちに気を配ってくださり、本当に「人」に恵まれた訪中になりました。

訪中が確定した際、家族、友人、アルバイト先など、様々な人に「中国に行くんだ。」と話したとき、周りの人たちの反応は正直マイナスなものばかりでした。危ない場所だと多くの人から言われました。私自身も、日本と仲が悪い、日本のことが嫌いな国、食べ物が安全ではないといったマイナスなイメージが多くありました。しかしそれよりも、中国のとても長い歴史、文化、暮らし方にとっても興味があり、参加しました。事前研修の副団長挨拶の際、大藪さんが「中国は日本の14倍人がいる。だから、14倍日本より良いことも悪いこともある。ニュースは誰かの目で見ただけを伝えていて自分の目で見ただけではない。良いところも悪いところも全部自分の目で見てほしい。」ということをおっしゃっていて、5日間自分の目でしっかり見るということを意識して生活していました。北京に着いて、最初に感じたことは、想像より高いビルが多く、車が多いことに加え日本より高級車が多く走っているすごく都会であるということです。東京とあまり変わらないのでは?と思いました。しかしバスでの移動中、人々の服装や建物をよく見ると、貧富の差が激しいことがよく分かりました。そんな状況でも、人々は楽しそうに前向きでした。自分の暮らしている環境で一生懸命生きている姿はとても印象的でした。

普通の旅行では体験できないことを多く体験できたこともとても印象的でした。特に、中国人学生との交流です。私は中国語が全くできず、この交流がすごく不安でした。しかし、学生は日本語や英語で話してくれました。日本語がとても上手で驚いたので何故日本語を学んだのか聞いたところ、アニメ、漫画、芸能人にすごく興味があり、それらをスムーズに見聞きできるようになりました。中国語に翻訳されるまで時間がかかりすぎると言っていて、中国で、日本の文化が浸透していることがとても嬉しかったです。日本人が好きな媒体を同じように好きな人が中国だけでなく世界中にいると思うと世界が急に身近に感じられるようになりました。

政治面、過去の歴史を通し、日中関係は決して良いとは言えないと思います。今回の訪中で、街の雰囲気や人々の態度は日本人を嫌がっている様子はないと感じました。しかし中国=嫌な国と思っている人が私の周りにはいることは事実です。同じように日本に嫌悪感を抱いている中国人も多くいると思います。私は、周りの人に中国はこんなにも素晴らしい場所だったことを伝え、マイナスなイメージを払拭していきたいです。

最後に、訪中をこんなにも充実させてくださり、良い機会を与えてくださった貴協会にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

「中国に対する私のイメージの変化」 小林結菜

私は、日本青少年代表団に参加する前まで中国に対して少し偏った目で見えていた。日本と仲が悪く危ない国、大気が汚染されているなどとマイナスのイメージのほうが大きかった。その理由は、私がニュースや新聞などのメディアから入ってくる情報しか知らなかったからだ。歴史上でも関わりが深く、近くにある国なのに、文化や生活習慣も知らない。訪中団があることを知り、自分の目で中国を見てみたいと思い、参加することを決めた。

私が、この訪中団で多くの場所を訪れ、様々なことを感じた。その中から、心に残った経験を3つ取り上げたいと思う。

1つ目は、1日目に訪れた首都博物館である。今まで中国の歴史は、中学、高校の授業でしか触れたことがなかった。昔の暮らし方や建物の模型を見て、日本と似ている部分もあり、中国が日本に多くの技術をもたらしてくれたという歴史を実際に感じる事ができた。2つ目は、2日目に行われた学校交流と歓迎会である。学校交流では、私は中国の将棋を体験した。中国の将棋は、日本の将棋とルールや駒に書いてある漢字が異なり、驚いた。中国から多くの文化が伝わっているから同じだと思っていたからである。日本と中国は、似ている部分もありながら、それぞれの国に合わせて文化が少しずつ変わっているのだと考えた。歓迎会では、中国の学生がヲタ芸や中国の踊りなどを披露してくれた。中国にも日本のアニメや歌などが広まっていることが分かった。また、中国の踊りを見て今まで知らなかった中国の文化を少し知ることができた。このことから、お互いの文化を理解して、尊重し合う大切さを改めて感じた。3つ目は、4日目に行われた日中大学生千人交流大会である。普段は入ることの出来ない人民大会堂で行われた。日中平和友好条約が結ばれてから約40年。国家間の対立を減らすためには、国民の交流が必要だということ改めて感じた。ニュースで見る中国の情報を鵜呑みにするのではなく、実際に自分の目で見て、中国の文化や考えを理解していくことが大切だと考えた。

今回の訪中を通して、私の中国に対するイメージは良いイメージが変わった。中国には中国の文化や考え方があり、日本には日本の文化や考え方がある。近くにある国で、遠い昔から関わりが多い国でも、異なる点があるのは当たり前だ。日本人の考えで、中国のイメージを決めつけるのは良くないと考えた。相手の国を自分の目で見て、文化を体験し、判断することの大切さを改めて感じた。2020年に東京でオリンピックが開催されて、2022年には北京でオリンピックが開催される。オリンピックをバトンタッチするだけでなく、中国と日本の国民がより交流して、お互いの文化を理解し、尊重し合えるような社会にしたい。

最後に、訪中団に参加して素晴らしい経験ができ、一生の思い出となった。自分の目で見て、文化を体験した中国を周りの人たちにも伝えていきたいと思う。

「中国での生活体験を通して自分自身の今後」 齊川綾華

1. 中国での体験を通して

5日間の訪中体験前、中国について考えたり積極的に情報を得たりしていませんでした。むしろ、あまり良いイメージを持っていませんでした。テレビの報道やネットニュース、新聞などの他人の見方を介した限られたものからしか情報を得られていなかったからだと思います。それでも、今思い返すと通っていた小中学校には在日中国人が多数おり戦争学習もしていました。訪中が決定し、自分で体験し肌で感じ、正しい情報を得ること、これまでのイメージや偏見に囚われず素直に目で見て理解する事を意識して臨みました。正直、空港に着いたばかりの空気感や周囲の様子からは日本との違いを感じませんでしたが、様々な場所を訪れ、話を聞いた事により、多角度で中国を見ることができ、色々な側面を学ぶことができました。しかし、特定の場所を訪れたことが印象に残っているというよりも、現地での日常生活や現地の方の生活風景、一緒に行動していたメンバーから学んだり刺激を得たりする部分が一番大きかったです。

まず、一番驚いたことは、英語を話せる中国人がほとんどいなかったことです。ホテルのロビーの方に電話で問い合わせたときも、空港職員に尋ねたときも全くといって良いほど英語が通じませんでした。簡単なことを聞いても、「話せないから。中国語にして。」や、スタッフ同士が電話の向こうで困っている様子が伝わってきました。英語は世界共通語で中国は世界人口1位だから日常会話くらいなら英語で通じるだろうと勝手に思っていたのですが、意外にもそうでないと感じました。

大学訪問で、エンターテインメントやアニメ、漫画等がきっかけで日本に興味を持ち、日本語や日本文化を学んでいる学生と交流しました。日本について様々な話ができた事に加え、中国の囲碁を教えてもらい、異文化体験を通して交流できたのが嬉しかったです。

一方、デパートに行った際、日本との違いをすごく感じました。店の前を通り過ぎるだけで商品名を連呼する姿、購入するそぶりを見せるとなるとしてでも買わせようと、巨悪を力づくで引き留め、口論している場を目にし、驚きが隠せませんでした。もちろん、全ての店舗がそうであるわけではありませんが、全体的に押し売りがすごかったという印象を持ちました。ただ、それが悪いというわけではなく、実際に体験できて、いろいろな人がいることが分かり、面白かったです。

ガイドさんが教えてくれる北京の昔と今、これからの話や交通事情がとても勉強になりました。オートバイではなく電動スクーターを利用する人が多いと思っていたら、環境配慮の面からオートバイは禁止で、車の増えすぎによる渋滞回避のためにナンバーにより走行できる曜日が決まっていることや販売は抽選であることを知って疑問解決とより深い学びができました。年収や家族の話などのリアルな一般市民の生活、法律や条例、社会問題や今後の北京市の発展など、個人旅行では得られない情報を知ることができ、本当にためになる訪中でした。

2. 今後について

私は全く中国語が話せず、英語で貫き通そうと思っていたのですが、話せるメンバーが助けてくれたり、楽しそうに会話したりしている様子を見て、中国語に興味が湧きました。昨年夏にイギリスへ海外研修に行った際友達になった中国人の学生と中国語で

話してもっと友好関係を深めたいと思ったし、すごく身近に感じるようになった中国へまた行きたいので、さっそくテキストを買って勉強を始めています。最初は全く知らない大学生と約1週間を共にするのが不安でいっぱいだったのですが、優しく接してくれたのと同時に様々な情報を共有でき、本音で話すことができ、良い刺激をたくさんくれて、このプログラムで日本人とも仲良くなったのがとても嬉しいです。

初めて訪れた中国で良い面も意外な面も沢山の発見がありました。発展してそうで発展していない部分、配慮されてなさそうでしっかり対策が取られている部分、今後は高齢化社会の進展という課題を抱えていて日本と似ていると思ったこと、電動バイクで走る人がほぼ全員ジャンパーを前から着て寒さ対策をしていて印象的だったこと。全ての思い出を大切に実際に体験してきた身として周りに伝え、これからは積極的に日中友好事業に参加していきたいと思いました。

「人生観が変わった訪中」 酒井梨恩

私は、今回、日本青少年代表団として訪中することができて本当に幸せだと感じています。私は、この訪中団に参加したことで、普通に生活していたら出会えないようなすばらしい人たちと出会えて友達になれて、普通じゃ経験できないような貴重な経験をさせていただき、人生の宝となる充実した1週間を過ごすことができました。

私がこの訪中団に参加したきっかけは、今年の6月に大学のプログラムでニュージーランドに行った際に、日本と違った海外の文化を知ることや国境を越えたコミュニケーションがとても楽しく、初めて海外に行った私にとってはとても刺激的で充実した経験となったので、もっといろいろな国に行って、この目でもっと違う世界を見たいと思い、海外に強く興味をもったからです。しかし、海外に行きたいと思いつつも学生のためお金もなく現実的に厳しいと思っていた矢先に「1万円で中国に行けるよ!」と友達に誘われて、ぜひ参加したいと思ったからです。また、中国は近隣の国で日本と関わりが深い国ですが、日本には報道などでしか情報が得られないことから、実際にこの目で中国を見てみることで、中国のことをもっと知りたいと思ったからです。

私の訪中前の中国のイメージは、あまりよくないものでした。中国人は早口で怒っているような喋り方をしている印象が強く、怖いイメージがあったし、日本のキャラクターをパクってくるし、売っているものはほぼ偽物だし、爆買い中国人はマナーが悪いイメージがあったし、pm2.5で空気が汚いし、正直いうと悪い印象しか浮かんできませんでした。でもそれは、報道を鵜呑みにして、本当の中国を知ろうとしていなかったのだと知りました。「百聞は一見に如かず」この訪中においてよく耳にした言葉ですが、本当にそうだと思います。報道は中国の一部にしかスポットを当てていないのに、私たちはそれが全てのように捉え、勝手なイメージを定着させ、中国を分かっているつもりでいると思います。でも、私は今回実際に中国をこの目で見てみて、こういったステレオタイプのイメージを壊すことができました。実際に交流した中国人学生はとても親切で優しく、とても笑顔が素敵で、いつも怒っているというイメージとはまるで対称的でした。また、マナーが悪いから道とかも汚いだろうなと思っていたけど意外にきれいだったし、予想外なことに空気が改善されていて思ったよりも澄んでいたし、中国は日本よりも発展していないと思っていたけど、バスで周りの景色を見てみると、高層ビルが立ち並び、訪れた企業見学では日本じゃみたくもない近代的な昼寝マシーンや顔認証システムが導入されていたし、バスガイドの左超さんの話では、今じゃ買い物も90%以上がスマホ支払いで、無人スーパーまであるというし、5Gのスマホの看板も所々で見かけて、日本よりも進んだ中国に驚きの連続でした。それと同時にやはり、実際に自分の目で見なくては知れないことはたくさんあるのだということも知りました。そして、訪中前からみると私の中国に対する気持ちは大きく良い方へと変わりました。中国にいた期間は5日間と短期間だったけど、その中で中国のいいところも悪いところも自分の目で確かめることができ、実際に中国に対しての考えが変わったので、とても大きな収穫となりました。

私は、この実際に見てきた中国を日本の家族や友人などできるだけ多くの人に伝えて、皆の中国に対するイメージを少しでもよくして、中国に対する苦手意識を捨ててもらい、身近なところから日中友好につなげたいと思います。また、今後日本は中国のいい文化も悪い文化も受け入れて、隣国としてもっとよい影響を与えあい、よい関係を築いていけたらいいと思います。そのためにはこれから日本を担う私たち若者が先導をきって中国の人々と友好を深めることが大事だと思うので、苦手意識を払拭した今、中国と友好関係を築く架け橋となればいいと思います。

また、この1週間は私の人生にすばらしい影響を与えてくれました。いろいろな考えを持った人と出会い、皆の将来の展望や考えを聞くのはとても刺激的で、同年代なのに経験値や知識量も全然違って、尊敬とともに自分を奮い立たせる活力となりました。

このようなすばらしい機会を与えてくださった日中友好協会及び関係者の方々にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

「これから」 相良遥

今回の訪中の参加きっかけは、大学から届いた一通のメールだ。私自身中国はとても身近な存在である。母親の生まれは中国であるためだ。母親は中国人であったが、私自身中国で生まれ、育ったわけでもなく、中国人の血が半分入って生まれ、育ちは

日本であり日本人である。ほかの訪中へ参加した生徒よりは中国という国は身近であり、中国語も堪能であるかもしれない。私自身中国へ行ったことがあるがまだ子供だった時なため、中国へは遊びへ行く、母親の帰省についていくといったような考えでしたが、私や兄弟が学校へ通い始めたことをきっかけに中国へ行くこともなくなり、中国の現状はニュースを通しての理解でした。やはり、私も訪中した学生たちと同じように中国は日本という国と国同士が対立しており、仲が悪いという一方的な考えでいました。数年前に日本のニュースで見た「魚釣島」の領土問題で対立していた際、日本車、日本のスーパーマーケットを中国の方々が壊していた姿は今でも私の印象に残っていました。しかし、今回訪中をきっかけに私自身中国人の血が半分流れていることをとても誇りにおもい自分自身、さらに中国、日本お互いを好きになりました。

今回、訪中で私は故宮(紫禁城)や万里の長城、天壇公園のような世界遺産を見学し、自分の足でその場の地を踏めたことはこれから忘れることのできない大切な思い出となった。

故宮は今まで中国のドラマを見る際、登場していて私は本場を自分自身の足でいつかは踏み入れたいと考えていました。実際に行き感じたことは、中国の歴史は、遙か長く日本にたくさんの文化を伝えてくれたことを感じさせられた。身近なもので言うと漢字ではあるが、陶磁器、お皿の焼き方。博物館を回った際に知ることができた。中国の歴史があったからこそ、いま私たちが住んでいる日本があるということ、中国の歴史はどれほど私たち日本人に影響を与えたのかを、知り、感じる事ができたのでとてもいい機会でした。

今回の訪中を終えて私は目標ができました。私は、今年の三月に大学を卒業予定ですが、就職はマレーシアでの予定ですので、そちらでたくさんの中系系の友達を作り、中国語を話せるようになり、いつかはまた北京へ行き中国の歴史に触れたいです。

「中国を体感してみて」 篠本丞晟

私は、日中友好協会の訪中団員として12月19日~25日の約一週間中国の北京に行きました。私がこの訪中団に参加を決めた理由としては、台湾に中国語学習のために一年間の留学経験がありましたが、中国本土には一度も訪れたことがなく、中国語学習者としては実際に中国に赴き本場の中国語に触れることがとても大切だと考えたことと、中国人や中国の文化をこの目で見て、肌で感じたかったからです。

旅程の初日は関西空港付近での研修から始まりました。私は4-Bの班に割り振られ、5大学ほどの学生での構成でした。この訪中団では、中国人との交流や中国の視察が主な目的ではありましたが、その目的をより達成しやすくするためには日本人同士の仲を深めることが重要であると聞き、班員との仲を深めることにも取り組みました。今年から会社に入り社会人の一員として生きて行くための練習にもなり、良い経験だったと思います。私は人と話すことが得意で班長として班員同士が話しやすい空気感を作り出せたことは自分の中でも大きな収穫だったと思います。

2日目からは実際に中国・北京に滞在して、現地の学生との交流や観光をしました。私がこの訪中団で自分の中での目標としていたことは、「中国人が日本人に対してどのような考えを持っているのかをこの目と耳で知る」ということでした。日本は政治的には中国や韓国との仲があまり良くないというような報道が国内でよくあります。しかし、私の経験上では中国人の友人も韓国で実際に出会った人も日本を毛嫌いしているような人はあまりおらず、あくまで国と国との問題であるというイメージが強かったです。このことから中国も同じような傾向なのではないかと考え、今回の訪中でそれを確かめようと思いました。結論から言うと中国も同じ傾向であり、日本人だからといって何かされることはなく、むしろ親切に対応してくれていました。街で話した人たちも日本のことや訪中のことについて興味を持ってくれた人も多くいました。今回の訪中で中国人と多く触れ合えたのはとても大きな経験になりました。

中国人との触れ合い以外での収穫としては、台湾で学んだ中国語が中国本土ではどの程度通じるのかを確認できたことです。私自身の発音があまり良くないこともありますが、台湾独特の表現などもあり、通じないこともまれにありました。しかし、大部分は通じていたのでこれからは発音を意識して練習しようと思いました。話すことよりも問題だと思ったのは私自身のリスニング能力でした。中国人は台湾人と違い舌を巻いて発音するので聞き取れないことがありました。自分自身の発音と中国人の発音、この二つを意識して中国語を学習していきたいです。

最後になりますが、この訪中団を通して日本各地で中国語や様々な分野を勉強している仲間に出会えたことは人生の中でも大切な思い出です。このつながりをここで終わらせるのではなく、これからも継続させていきたいです。また、今回の訪中団での経験をもとにこれからの人生を有意義なものにしていきます。

「中国に行って気がついた中国の良さ」 菅又理沙

訪中を終えて私は、テレビやインターネットで見るとよりも、実際にその国を訪れないとわからないことの方が多くに気がついた。私は今まで中国人と交流する機会が何度かあり、中国の文化について興味があったが、正直に言うと、中国に対してあまり

良いイメージを持っていなかった。なぜなら、テレビで見る中国は、大気汚染や反日、偽物の商品などといったマイナスの話題ばかりだからだ。そのため、いつしか私は、中国人は怖くて、いい加減な人が多いという偏見を持つようになってしまっていた。

そんな中、今回の訪中団の募集を知り、本当に中国は私の思う通りなのか、疑問に感じ、自分の目で確かめたいと思い訪中団に応募した。そして結果として、私の中国に対する考えは180度変化した。はじめに中国に到着し空港を出た瞬間に感じたのは、空気がとても綺麗だということだ。このことについて、ガイドの方がバスの中で、中国政府が空気改善のために様々な政策を行っているという説明をしてくださった。私が日本にいる間、大気汚染のニュースは何度も目にしたが、中国がこのような政策を行っているというニュースはほとんど見たことがない。このことから、テレビで見ることが全てではないと強く感じる事ができた。そして、中国人に対する印象も大きく変化した。今回の訪中の際、ガイドの方やお店の店員、交流を行った学生など、多くの中国人と接したが、どの方もみんな笑顔で優しくして下さり、何度も温かい気持ちになる事ができた。確かに、反日感情を持つ中国人もいるが、全ての人がそういった感情を持っているわけではなく、日本人に対しても好意的に考えている人も多いことを実感した。

さらに、今回の訪中では多くの世界遺産にも行くことができたが、中でも最も私が印象に残っているのは万里の長城だ。私は高校時代、世界史が大好きであり、万里の長城についても資料集や映像などで何度も見たことがあったが、実際に訪れると、その迫りに圧倒された。こういった歴史的建造物でさえ、自分の目で見ないと分からない雄大さや感動があるということも、今回の訪中で気がついたことの一つである。

中国を訪れてみて、中国の良いところをたくさん発見することができたが、それと同時に日本の良さを実感する場面もいくつかあった。例えば、トイレなどといった水回り環境のことだ。私は普段、当たり前のように清潔感のあるトイレを使用し、トイレットペーパーを水に流したりしているが、中国では観光地でもトイレが汚かったり、トイレットペーパーがなかったりするところが多い印象を受けた。また、私が滞在していたホテルでも水が溢れてしまい、ホテルの方に助けを求めた。このような経験から、日本の豊かさを感じたと共に、私達の当たり前は世界では当たり前でないこともあり、私達基準で物事を考えてはいけないことを学んだ。

2020年は東京オリンピックも開催されるため、ますます多くの外国人が日本を訪れると予想されている。今回の訪中を経て、自分の抱えている印象の中には間違っていることも多いと知った。そのため、これから先、外国人と交流する機会があれば、もっと積極的に会話をし、自分の中にある偏見をなくしたいと思う。そして、今後も日中友好のための活動に何らかの形で関わっていきたいと強く思う。

「初めて中国に行って」 西口みのり

私が今回この日中友好協会の訪中に参加した理由は、友達に誘われたからです。今まで、私は中国に対してニュースなどを見ていると、あまり良いイメージが持てず、まさか自分が中国に行くことになるとは思いませんでした。しかし、実際に中国を訪れて、訪中しなければわからなかったこと、気づけなかった中国の良さをたくさん知ることができて、とても貴重な4泊5日を過ごすことができました。

私が今回の旅行で一番印象に残ったのは、世界遺産に行けたことです。特に、万里の長城は教科書など、いろいろな場面で見てきて、実際に上ることができてとても感動しました。あんなにも大きくて長い丈夫な城壁を作った人々の苦勞が感じられました。万里の長城は最大で70度の角度があり、降りるときは足がすくむほど怖かったです。でもとても良い思い出になりました。海外の世界遺産を訪れたのは初めてだったのでとても嬉しかったです。そして、今回の訪中で中国の文化にたくさん触れ合うことができました。毎回の食事は中華料理で、日本では味わうことのできない中国の食文化を体験することができました。中華料理は毎回おいしくて、丸いテーブルを囲んでみんなで食べるのがとても楽しかったです。北京ダックを初めて食べましたが、とてもおいしかったです。中国の料理には4種類あって、私は田舎料理が一番好きでした。あまり脂っこくなくておいしかったです。現地の学生との交流では、実際に中国人の大学生と英語で交流できてとても楽しかったです。日本のキャラクターなどもたくさん知ってお話できてよかったです。日本語選考の学生だったので、日本語がとても上手でびっくりしました。中国の学生と日本語で会話できて、嬉しかったです。今回のこの交流で私も中国語を勉強してみようかなと思いました。そして中国の市場に行って買い物に行ったこともとても良い思い出になりました。日本にはない、値切りをして中国語があまりわからないので難しかったけど、初めての体験ができてとても面白かったです。中国のマックに行ったら、タピオカが置いてあって驚きました。このように、日本のお店と中国のお店の違いをたくさん感じる事ができてとても楽しかったです。

今回中国を訪れるまで、中国へのイメージはニュースでのイメージしかなくて、あまり良い印象ではありませんでした。家族や友達などいろいろな人に心配されて、私も少し不安なまま中国に行きました。でも、実際に行ってみて、中国人も意外とやさしいんだなあとか意外と空気かきれいだなあとか自分自身で感じる事ができてとてもよかったです。今回の訪中で中国のイメージはかなり変わりました。団体で行けたからこそ、心細くなかったし、たくさんのお会いがあり、自分にとってとても刺激になるとも良い4泊5日でした。今回のようなこのような素晴らしい訪中のプログラムを企画してくださった日中友好協会の皆さんや現地のガイドさんなど多くの方のおかげで私たち若者同士の日中の交流ができたことを本当に感謝しています。まだまだ中国に対してのイメージが良くない人もたくさんいると思うので、周りの人に今回の訪中のことをたくさん話して、少しでも多くの方が中国に対してのイメージが変わってくれば良いと感じました。そしてこのような素晴らしいプログラムがあることをもっと多くの人に知っ

てもらい、実際に中国を訪れてみてほしいなと感じました。今回このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

「中国訪問での気づき」 東 大樹

12月19日から25日まで日中友好大学生訪中団に参加した。1日ごとに振り返りながら報告書を書きたいと思う。

12月19日、関西国際空港内のホテルに集合した。知っている人は一人もおらず、緊張しながら話を聞いていたのを覚えている。実際に訪中団に参加した人の話や、注意事項を聞きながら、本当にこれから中国に行くのだと実感を覚え始めていた。同じ号車の人たちとの日々交流を通して、中国に対して抱くそれぞれの希望や期待、印象を交換し合い刺激を受けた。このような人々との訪中は成功に終わると強く感じた。

12月20日、ついに中国、北京へ発つ時が来た。高揚感と共に飛行機へ乗り込んだ。北京へたどり着いた最初の印象は、とにかく寒い。高知で生まれ育った自分には体験した事ないほど寒かった。ただ、気持ちだけは周りのみんなに呼応するように熱くなった。バスへ乗り込み、窓からの景色をしばらく眺め日本との違いを探していた。想像していた北京はもっといろんなものが混雑していて、あちらこちらで喧騒が聞こえてくるようなものだったが、建物も整然としており、空気も街全体も非常に綺麗だった。中国に来て初めて食事をした。見たことのある中国料理から、見たことのないものまで様々なものが出された。日本人には馴染みのない味のものが多く、新鮮な体験だった。醪糟という甘酒と餅を煮たような料理が非常に美味しく気に入った。これからの中国での数日間の生活が楽しみになる晩餐会だった。

12月21日、学校交流で現地大学を訪れた。非常に歓迎されている感じが嬉しくなった。アニメ作画の班に入った。日本語を話すことのできる人が多くいることに驚いた。アニメを通して日本に興味を持ったと語っていた。こういった文化交流が日中関係をより良くしていくきっかけになると考える。

午後は天安門、紫禁城を訪れた。世界遺産に登録されている観光地であり、非常に観光客が多い印象を受けた。サイズ、スケールが非常に大きく、これは想像していた中国の印象と一致するものだった。

夜の晩餐会でも中国人大学生との交流があった。楽しく話ができて、友達がまた増えた。日本側のパフォーマンスも中国側のパフォーマンスも素晴らしい物ばかりだった。

12月22日、午前中に万里の長城を訪れた。個人的に最も印象に残る観光地だった。一目見たときの迫力が凄かった。午後を訪れた天壇公園もスケールが大きく、中国の力強さを感じた1日だった。

12月23日、この日は人民大会堂に入って交流会を行った。一生においてもう経験することはないであろう貴重な経験をすることができた。これから日中関係をより強固なものにし、積極的にコミュニケーションをとっていく契機になったと感じる。

12月24日、いよいよ帰国の日になる。本当に一瞬だった北京滞在で、とても寂しくなった。楽しく、有意義な北京を離れることも、最高の友達たちと離れることも悲しくなった。北京滞在であつたいろいろなことを回顧しながら帰国の便に乗り込んだ。この北京滞在で大きく感じたことが一つある。国際関係において、相手がどこの国の人であるかを意識しながらコミュニケーションをとるべきではないということだ。相手とコミュニケーションをとるとき、相手にしているのは人であって国ではない。この先日日中関係が政治的に悪くなったとしても、訪中で出会った中国の人々との関係は悪化しないし、これからもきっと続いていくはずだ。言語や慣習、人種が違って、僕たちは良い関係を築いていける。

誰かと出会ったとき、「その国」ではなく「その人」とコミュニケーションをとっていることをこれからも意識しながら、国際人材として世界へ羽ばたきたいと考えている。

前川勝哉

2019年12月19日から25日にかけて日本青少年代表団の日中友好協会分団に参加させて頂きました。一日目は、関西国際空港のホテルで研修会を行いました。二日目は、午前中に中国国際航空の飛行機に乗り、関西国際空港を飛びたち北京首都国際空港へ到着しました。午後には首都博物館を見学しました。三日目は、午前中に北京城市学院天城キャンパスにて学校交流を行いました。午後には、天安門広場と故宮博物院を見学したあと、夜には北京市内のホテルにて歓迎の夕食会に参加させて頂きました。四日目は、万里の長城と天壇公園へ行き、またショッピングモールで買い物を楽しみました。五日目は、午前中に若者の起業関連施設見学を行いました。午後には人民大会堂にお招き頂いて日中の学生を中心に1000人以上の規模で行われた中日友好青少年交流大会に参加しました。六日目は、北京計画展覧館という博物館を見学した後、中国国際航空機で帰国し、空港で最後に集まった後に解散し後泊をしました。七日目はそれぞれ地元へ帰りました。中国に滞在したのは20日午前から24日午後までの4泊5日の間でした。私にとって今回の訪中は、これまでは聞いただけに留まっていた中国のついで知識を深め、中国について理解し、今まで抱いていた中国へのイメージを大きく変えることになりました。

今回の訪中で最も意義深かったと思う活動は、やはり、学生をはじめとする中国の方と会話ができたことです。私は、訪中前まで、

日中友好協会の日本に対する抗議行動のニュースの印象が強く、中国人の多くは日本人をなかなか受け入れてくれないのではないかと感じていました。しかし、今回交流できたのは、日本と日本人、日本文化に興味をもってくれている人ばかりでした。訪中団の日本の学生も中国に興味がある人の集まりだったために、そういう方と交流することになるのだろうと考えてはいましたが、実際に会って話し、中国人の日本に好意を抱いている一面に触れることができると嬉しく感じました。また、自分も中国に対して抱いている関心や興味が伝えたいと思い交流するうちに、心が通じ合うような気がしました。中国の学生と交流し印象的だったのはこれだけではありません。中国の学生の意欲的な様子が心に残りました。中国の学生は、真剣に学び、将来を考え、学べる様々なチャンスを大事にしているように見えました。1年間の日本語学習である程度日本語が使えるようになって人がいたり、これまでの英語学習で英語を流暢に使いこなせている人がいたりして、積極的な学びをしているように感じました。その姿を見て、自分も頑張ろう、素直にそう思えました。今回の交流で完全に言葉が通じたわけではありませんでした。しかし、完全に言葉が通じなくとも、何とか気持ちを伝えよう、気持ちを知らうとお互い努力しているように感じました。こうした努力と時々見せてくれる笑顔に、優しい人が多いと感じました。

北京市対外友好協会の方や、バスガイドの方、店の方など、学生以外の人との交流もとても勉強になりました。様々な中国の方と話せたことは、語学学習に役立ったことはもちろんのこと、中国の生活の様子を知ることができました。とても面白い経験でした。

万里の長城や紫禁城といった中国を代表する世界遺産に訪れることができたのも大変ありがたい経験でした。中国のスケールの大きさに圧倒されるとともに、様々な建築や文化財に日本との文化の共通点と相違点がどちらも見つかって、隣国ならではの面白さを感じました。

また、日本人同士の交流も刺激的でした。学問や課外活動に熱心だったり、留学をしていたりして、他の大学の友達が努力をしていることを知りました。実際に中国語を使い自分より遥かに流暢に現地の人とコミュニケーションをとる姿にすごいと感じました。自分はまだ中国語がよく話せません。自分も話せるようになりたいと思いました。中国語学習に対する意欲が強まりました。

自分の将来に役立つ貴重な体験ができました。実際に行き感じた中国は、聞いただけの中国よりずっと魅力的に感じました。百聞は一見に如かず。この言葉の意味をまさしく実感できた訪中でした。また、このような日中交流の機会があれば積極的に参加させて頂き、日中友好の一助となれたらと思います。今回、このような機会を下さる準備をして頂いた全ての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「経験という財産」 丸尾圭史

私は今回の訪中を終えて、いかに自分が中国について知らなかったか気が付きました。私の訪中前の中国に対するイメージとしては、街や空気が汚く、冷たい人や攻撃的な人が多くいるというマイナスなイメージを持っていました。それは日本のニュース番組で中国の悪い部分だけを見てきたことが原因だと思います。訪中する理由も中国が好きだからという理由ではなく、ただ単に安く行けるからという理由でした。今回の訪中でそんな悪いイメージは払拭され、むしろ中国のことがとても大好きになりました。

今回の訪中では関西組と関東組の約200人が中国を訪れました。私たち関西組は訪中前に事前研修がありました。日中交流の前に日々交流が大切だということでお互いに自己紹介をしたり一緒に食事をしていました。そこで他の日本人の参加者がどういう人なのか、中国に対してどう思っているのかなど知るいい機会になりました。他の参加者の中国での経験を聞くことによってこの時点で少し中国に対するイメージが変わっていき、ワクワクし始めていました。そして訪中1日目。中国についた後、早速本場の中華料理を食べに行きました。事前研修も中華料理を食べていたのですが、本場の中華料理の味付けは日本にはあまりないので、独特な感じがあり、肉料理が多い印象を受けました。食事の会話を通して、天津飯は中華料理ではないことや中国の食事のマナーとして少し料理を残す文化があるということ学びました。食事をした後は首都博物館に行きました。そこでは古い北京について学びました。北京2日目は北京城市学院航天城キャンパスで学校交流がありました。私はアニメデザインを体験し、中国人の学生と交流をしました。中国人の学生は日本のアニメが好きで多く、アニメを通して日本が好きになったという学生も多くいました。私は中国語が全く話せないで基本中国の学生が日本語を話してくれたのですが、やはりどうしても伝わらないことがあったので自分が中国語を話せたらより話が膨らみ、交流できたのになと思いました。交流の後は天安門広場へ行きました。中国全体で言えることですが、広場はとても広く、日本とのスケールの違いを実感しました。スケールといえば万里の長城へ行ったのですが、長さや階段の段数の数、一段一段の高さに度肝を抜かれました。その大きさにとても偉大さを感じ、また同時に積み上げてきた長い歴史を感じました。万里の長城に行った後はショッピングをする時間がありました。これがまたすごく新鮮な体験で、お店の人がしつこく声をかけてきたり、腕を掴まれたりしました。日本ではあまりそういう経験はないので最初はびっくりしましたが、慣れてくると英語で会話をしたり値切り交渉をしたりしました。普段値切り交渉をすることがないのでお店の人との駆け引きがとても楽しく、貴重な経験ができたと思います。北京へ来て4日目は若者の起業関連施設見学をしました。私は将

来起業を夢見ているのですごく勉強になりましたし、同じ若者が頑張っている姿を見てとても刺激を受けました。社内はとても雰囲気良く、設備も整っており仕事がしやすいように感じました。窮屈な場所があまり好きではないのでこういう会社で働いてみたいと思いました。施設見学の後は人民大会堂で千人交流大会がありました。そこでは日中の学生がお互いにパフォーマンスをし、お互いの国文化の理解、興味を深めました。人民大会堂は普段なかなか入れるところではないので、招待して下さった中国側にはとても感謝しております。

今回の訪中は安く行けるからという単純な理由で参加をしたのですが、参加をして本当に良かったと思っています。単純に中国の文化を学べたからではなく、これからの中国と日本の未来を担う若い世代同士が交流をすることでお互いの理解が深められたからです。この交流は将来確実に生きてくると確信しています。今回の訪中が自分の人生においてとても貴重な経験であることは間違いありませんが、この経験を生かすも殺すも自分次第なので、この経験を次につなげていきたいと思っています。本当に北京に行って良かったです。

「日中友好協会訪中団への参加を経て」 村上郁

私が今回の旅に参加した一番の理由は少額で4泊5日の北京旅ができるからという単純なものだった。しかし実際に行くことが決まった時に、せっかく行くならたくさんのことを学んでこようと考えた。中国をテーマに色々考えてみた時に思いついたことが、中国への固定観念だ。今まで私たちが受けてきた教育、聞いてきた世論、流されたニュースによって世界観が狭められ、私たちは知らないうちに様々なものに先入観を持っている。それは中国に対しても例外ではない。私は固定観念を持っていないつもりだったが「中国」と考えたら、中華料理、赤いもの、混雑、怒声、ごった返す人々、汚い環境、日本より遅れているというイメージが浮かんできた。実際に自分で見たことがないのに勝手にこのイメージを持ち、その世界観で様々なことを語ってしまうのは愚かで恥じるべきだから私は本当の「中国」を見に行こうと考え、出国しました。

北京空港に着き、最初に驚いたのは空気が全く淀んでいなかったことだ。何年前かにニュースで中国のPM2.5の報道がされた時、全員がマスクを着け空気が淀みまるで夜のようになってしまった町を歩いているのを見て、ずっと空気が汚いというイメージを抱いていたからだ。市内を走るバスから外を眺めていたら高層ビルの多さに驚いた。東京より広いため道幅もとても広く、市全体がとてもダイナミックに見えた。デザイン性に富んだ建物もたくさんあり近未来のようだった。実際に市内を歩いてみると、活気に満ちていて、多くの車やバイクが走っていた。何回か轆かれそうになったリクラクションを鳴らされたりした。団体行動をしていたためトイレでは長蛇の列を作ってしまう、私の後ろに並んだ中国人は少しイライラしながら待っていた。学校訪問をした時は澁刺とした人ばかりで、中国語がほとんど話せない私に対して英語で会話をしてくれた。企業訪問では、顔認証で入社するシステムやスイッチを押すだけで会議室の透明なガラスが摺りガラスに変わるシステムを見て衝撃を覚えた。日本にもあるかもしれないシステムでしたが実際に目にしたのは初めてだったからだ。中華料理はとても美味しく、また、4Bのメンバーと仲良くなれたため毎度の食事が楽しみだった。地域によって香辛料の多さや味付けが違うのが興味深かった。揚げ物の衣がカリカリで感動した。私は以上のことから焦りを感じた。今まで勝手なイメージで日本の方が優れていると思っていたがそれは間違いで、北京の発展は凄まじく、さらに勢いのある国民性がその発展を支えていると考えたからだ。今まで持っていた固定観念はほとんど払拭された。日本人は自分たちが先進国だからと油断して穏やかに過ごしているがこのままでは他国に追い越されてしまうのではないかと、このままでよいのだろうかと考え始めた。私の将来の夢は直接日本の発展に関わっているわけではないが、この焦燥感を忘れずに勉学や様々な活動に励みたい。

「初めての中国で感じたこと」 村山柊花

今回生まれて初めて訪れた中国は、帰国した今振り返ると、自分の想像をはるかに超える国であったと感じる。特に、自分の中の中国の印象は訪中後に大きく変わった。訪中前、私の中の中国の印象は日本のメディアに影響されたものであり、「爆買い」や「共産主義」のイメージがとても強かった。しかし、これらの印象は日本のメディアによって形成されたイメージであり、私自身が抱く独自の印象ではなかった。このような偏った印象を変えたのは、中国にいる中国人の人々であった。私の中であまり良い印象ではなかった中国人の印象は、中国にいる中国人によって変わったのだ。中国で暮らす中国人は、どの場所であっても私が想像していたよりもとても優しくなった。言葉で悩んでいけば、私が翻訳アプリを使う前に翻訳アプリを駆使して中国語から日本語に変えて意思を伝えてくれたり、支払いの際に、角の料金を割り引いてくれたり、様々な心遣いに出会った。このような心遣いは、日本で生活しているだけではわからないものだった。このような中国人の行動によって私の中の中国のイメージは大きく変わった。

逆に変わらなかったイメージもある。変わらなかったイメージは、そのスケールである。中国はとても世界的に国土や人口の数字が大きい国であり、そのような事実から、中国にあるほとんどのもののスケールが大きいのだろうと、訪中前に感じていた。その想像は実際に中国を訪れて確信に変わった。道を走る車の量、町中の人々、活気のある店内、バスガイドさんからの話。このような実際に中国で起こる日常は私にとって目新しく、すべてが学びであった。

一方で、スケールが大きいことは全てにおいてよいことではないということが大きな発見であった。訪中前、国土が大きい中国では日本と比べて陸の面積が大きいので、栽培することができる野菜や果物、得ることのできる資源量などから様々な面において得ることのできるメリットが多いと感じていた。しかし、それは非常に安易な考えであった。中国ではそのスケールの大きさから中国全土を一つの国家が統治することが困難であり、現在も中国国内では多くの問題が残されており、衝突も発生している。さらに、中国国内では使われる中国語が統一されていないことから発音の違いや、認識の違いなどが問題となっている。このような問題から、スケールの大きさがメリットに直結するわけではないことを理解することができた。

今回の訪中を通じて大きく感じたことは、自分中の中国印象が非常に偏っていたということである。日本で生活を送っていた時には、自分が抱く中国の印象が過激で偏りすぎていると強く感じたことは無かった。むしろ、今回の訪中を止めようとしていた私の友達の方が、

中国に対してマイナスなイメージが強かった。しかし、今回の訪中を通じて、自分の印象は非常に偏っていたと感じた。それは中国人との交流を経てだけでなく、同じ訪中団の団員である日本人との交流からもそのように感じた。私とそう変わらない歳の学生が、中国語を積極的に学び、日本と中国の関係を考えていることは私にとって衝撃的な現実であった。

このような様々な中国での経験を通して、今回の訪中は私にとって日中交流や中国へのイメージを変える最高の機会であったと感じる。

「中国に対する思いが変化するきっかけとなった訪中団」 横山 綾香

今回の訪中では、由緒ある中国の観光名所を訪れたり、中国の伝統料理を食べたりするなど、中国の文化や伝統を密に味わうことができた5日間であった。その中でも特に忘れられない思い出となったのが、中国人学生との交流会である。交流会では、数多くある体験の中から、私は、トートバックに伝統的な絵や文字を書くというアニメーションデザインを体験することになった。私はその活動で出会った中国人の学生とトートバックを交換し、互いにメッセージや絵を書き合ったのだが、その交流の中で、お互いの国について話し合ったり、互いの趣味や学校生活など様々な話題で会話をしたりすることによって、彼女と交友関係を結ぶことができた。さらにこの活動以外においても、多くの中国人との交流により、中国の習慣や文化に触れることはもちろんのこと、本場の中国語に触れたことによって、自分の中国語に対するやる気をさらに向上させることができた訪中であったと考える。私がかたとえどんなにぎこちない中国語で話しかけても、私の話を最後まで聞いてくれたり、中国語で話しかけることによって、多くの中国人と距離を縮めることもできたりした。中国を訪れる前までは、自分の中国語力に全く自信がなかったのだが、勇気を持って中国語を話しかけてみたことによって、“你的汉语太棒”などと多くの人々が私に言ってくれた。私はこの言葉にとっても嬉しく感じ、もっと中国語でコミュニケーションを図りたいと思うようになった。さらに、多くの中国人と交流し、中国人の優しさや温かさに触れたことによって、より一層中国が大好きになった。このような交流を通じたことで私は、大好きな中国と、日本との関係を更により良いものへと構築させていきたいと考えるようになった。

しかしそんな私も、以前は中国という国に対して、あまり良いイメージは持っていなかった。なぜなら、ニュース番組等で、PM2.5に対する問題、食品における異物混入などの問題を耳にしていたからだ。それに加え、公共機関の中でも大声で話していたり、列に並ばず割り込んでくる中国人がいるという話を聞いたりして、中国は生活環境やマナーが悪い国であると勝手に先入観を抱いてしまっていた。実際に私の周りにも、中国人に対して良いイメージを持っていない人が多く存在しているのが現状である。しかし、私は、今回の訪中を通して、実際に交流することが何よりも重要であると気づくことができた。なぜなら、今回の訪中団に参加し、中国人の思いやりの心、優しさなどに触れたことによって、私の抱いていた中国に対するイメージが良いものへと変化したからである。メディアの情報や、周りの人々の意見だけで、イメージしがちであるが、実際にその国を訪れ、自分自身でその国の人々の優しさや、その国の文化や習慣に直接触れることによって、その国の素晴らしさは見えてくると私は考える。今回の訪中を通して、私が中国の良さに気付くことができたように、さらに多くの人々にも中国の素晴らしさを知ってもらいたいと考えている。今回、私は訪中団に参加したことによって、私の中にある中国に対するイメージは180度変化し、中国の人々、言語、文化など中国に対する全てが大好きになった。今後、大学生活においても、今回の経験を活かし、両国の良さを知ってもらう日中交流イベントを開催するなど、日中関係を更により良いものへと構築させるサポートを行っていきたいと考えている。



中国人学生との交流会にて